

市民の横顔 FACCE

歌集「山の木洩れ陽 かくれうた」を
自費出版

なかむらさちこ
中村幸子さん

子宮体がんを患い、闘病生活を送る
上田町在住の中村幸子さんが、50年以
上にわたって詠み続けてきた短歌を歌
集「山の木洩れ陽 かくれうた」にま
とめ、昨年12月に自費出版しました。

中村さんは、昭和36年から平成21年
まで市内の病院などで働いていた元看
護師。短歌との出会いは小学5年生の
授業がきっかけで、我流で詠むようにな
りました。「歌を詠むと素直な気持ち
になれる」と、日々の生活の中で感
じたことや看護師時代の思いなどを日
記に書き留めてきました。

ところが、定年後の平成23年にがん
が発覚。命の不安に駆られる中、中村
さんは、長年の夢であった歌集を仕上
げたいとの思いで、これまでの作品の
整理を始めました。同時に、病のこ
とも歌に詠むことで、「前向きにがん
と向き合えるようになった」と話します。

気を強く 我（わが）来（こ）し方を 大切に
麻酔覚めての 楽しみとする

「病との闘い」を詠んだ中でも、思
い入れの深い歌のひとつで、手術に臨
む前の強い気持ち伝わってきます。
そして、同じ病に苦しむ人には、「現
実を受け止め、あきらめないで明日へ
つなげていくこと。心の持ち方が大切
です」と呼びかけます。

現在は自宅療養をしながら、創作活
動を続ける中村さん。今後は、自身
の体調と相談しながら、看護師の経験や
メンタルケアの知識を生かして、「心
や身体の悩みを持つ人の相談に応じ
たい」と話し、新たな活動に意欲を見
せています。

※今回、中村さんから歌集を寄贈いた
だきました。図書館で閲覧すること
ができます。歌集への問い合わせは
中村さん（☎ 63・7644）へ。



中村さんがまとめた
歌集「山の木洩れ陽
かくれうた」